

令和7（2025）年度中津川市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

2024年度の当地域における全水田面積に占める作物作付状況は、水稻作付の面積割合が約49%である。転換作物の面積割合が約26%、残りが休耕田や自己保全等の不作付地である。引き続き、土地利用型作物の担い手への集積を進め、不作付地の解消、荒廃地の増加を防ぐとともに、主食用米の需要が急激に増加し、米の価格の上昇が見受けられる中、今後においても米の受給バランスを保つため、他の作物への作付転換を促進し、米の価格安定につながるよう水田活用を図っていくことが必要である。

その他、麦・大豆・そば等の転換作物については、広大な面積を有する当市において、地域間の気温差、地形の違い、標高差、排水不良、土壌酸度の不適正等により、収量への影響は大きな課題である。また、高齢化や人口減少の本格化による担い手不足や農業離れも深刻な課題となっており、作付面積減少の傾向が見られるため、交付金を活用し農地集積、担い手確保と併せた農業振興を図る必要がある。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当地域の実情に応じた、高収益作物の生産拡大を推進する。

特に「トマト、なす、花き、いちご、ブロッコリー、ちぢみほうれんそう、栗（定植後5年間の支援）、枝豆、落花生、あじめこショウ、西方いも、きくいも」を推奨し、地域の特色ある特産野菜、伝統野菜等の産地化に向けた取組などを推進し、産地化の拡大を進める。

令和7年3月に市内全13地区で将来を見据えた「地域計画」が策定され、今後の農地の有効活用、農地の集約を進め生産効率を高めていく方針が定められた。計画を踏まえ、収益性、付加価値の向上として、地域の状況に応じた振興作物の産地化を進め、地産地消、販路拡大を進める為、販売農家や、農産物の出荷量を増やし、農産物直売所等への出荷を促していく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

地域の抱える問題として、農業従事者の高齢化、後継者不足、田舎離れ等が進む中、現状を維持していくことが重要である。また、中山間地域では高低差もあり1枚あたりのほ場が狭小で、水利や気候状況等から水田に適さない農地については、畑地化への転換を含め水田の有効活用に取り組む。地域ごとに集約、集積できる担い手確保に努めることが重要である。各農家の営農計画により水田の利用状況、作付け品目等の把握に努め、引き続き畑地化の要件に該当する農地は関係機関と連携し支援していく。

4 作物ごとの取組方針等

（1）主食用米

高品質・良食味の売れる米作りの徹底により、米の生産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。

また、主食用米の需要が急激に増加し、米の価格が不安定な中、安定的な需要が見込まれる業務用の主食用米の作付けを、実需者との契約栽培等によりあわせて推進していく。

（2）非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の急激な需要量の増加が見込まれるが、今後においても米の受給バランスを保つため、

土地利用型作物として担い手の転換作物の中心作物に位置付ける。また、飼料用米の生産拡大にあたっては、農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組として、実需者との結びつきを持ち、引き続き需要に応じた生産を行っていく。

また、低コスト化、農地集積を行い、収益性を確保するため多収品種での取組を推進する。

イ 米粉用米

農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組として、主食用品種でできる米粉用米を推進し、需要に応じた生産を図っていく。

ウ WCS 用稲

農業・農村の所得増加につながる生物生産の取組として、畜産農家との結びつきを強化し、現行の栽培面積を維持・拡大する。

エ 加工用米

農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組として、主食用品種での加工用米等の取組を「水田活用米穀」として推進を図り、需要に応じた米生産を図っていく。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦・大豆について、農地の集約を促進し、生産性向上の取組を推進する。高温障害等により、自然災害対策を講じても反収を上げることに苦慮しているが、実需者との契約に基づき現行の栽培面積を維持・拡大し安定生産を図る。飼料作物は、産地交付金を活用し、畜産農家の自家利用を中心に、現行の栽培面積の維持を目指す。

(4) そば

地域の特産品として需要も非常に高く、市内の飲食店でも広く中津川市産のそばが使用され、地産地消が行われているため、今後も地域の担い手を中心となって実需者との契約に基づき、防栽培面積を維持拡大し、産地化を進めていく。

(5) 地力増進作物

生産力の増進を図るため有機栽培又は高収益作物等への転換に向けた土づくりを推進する「地力レンゲ」、「地力クローバー」、「地力イタリアングラス」、「地力ソルガム」、「スーダングラス」をすき込みにより良質な土壌づくりに取組む農業者に対して最高2年間支援していく。

(6) 高収益作物

「トマト」、「なす」、「花き」、「いちご」、「ブロッコリー」、「ちぢみほうれんそう」、「栗」、「枝豆」、「落花生」、「あじめコショウ」、「西方いも」、「きくいも」を地域振興作物として拡大し、産地化を図る。また、販売農家を増加させるため、戦略作物以外の作物として、「野菜」、「果樹」、「花き・花木」、「雑穀」、「その他作物」の拡大を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和8年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	1248.2	0	1305.0	0	1257.5	0
備蓄米	0	0	0	0	0.0	0
飼料用米	123.6	0	84.5	0	131.7	0
米粉用米	1.0	0	1.0	0	1.0	0
新市場開拓用米	0	0	0	0	0.0	0
WCS用稲	28.3	0	29.9	0	30.0	0
加工用米	2.9	0	2.9	0	3.0	0
麦	47.4	3.9	44.9	4.2	53.0	2
大豆	21.9	2.7	17.0	3.0	22.1	0
飼料作物	46.0	0	40.0	0	45.2	0
・子実用とうもろこし	0	0	0	0	0	0
そば	41	0	41.5	0	42.0	0
なたね	0	0	0.0	0	0.0	0
地力増進作物	2.1	0	2.1	0	2.2	0
高収益作物	44.8	0.5	44.8	0.5	51.7	0.4
・野菜	38.0	0.5	37.8	0.5	44.7	0.4
・花き・花木	3.4	0	3.1	0	3.5	0
・果樹	1.8	0	2.2	0	2.1	0
・その他の高収益作物	1.6	0	1.7	0	1.4	0
その他	1.2	0	1.2	0	1.0	0
その他の豆類	1.2	0	1.2	0	1.0	0
畑地化	0	0	3.5	0	0.0	0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
				（2024年度）	（2026年度）
1	飼料用米・加工用米 （基幹作）	非主食用米の低コスト 化助成	10 a 当たり生産費 （作付面積）	飼料用米 99,843円 （ 12,134a ） 加工用米 148,700円 （ 281a ） 計 12,415a	飼料用米 97,500円 （ 13,123a ） 加工用米 110,400円 （ 300a ） 計 13,423a
2	WCS用稲 （基幹作）	WCS用稲の低コスト 化助成	10 a 当たり生産費 （作付面積）	（2024年度） WCS用稲 115,843円 （ 2,824a ）	（2026年度） WCS用稲 100,300円 （ 3,000a ）
3	麦・大豆（黒大豆含む）・ そば・飼料作物 （基幹作） 大豆（黒大豆含む） （二毛作）	戦略作物・そばの集積 助成	作付面積 （集積率）	（2024年度） 麦 4,324a （92%） 大豆 1,684a （69%） そば 3,793a （93%） 飼料作物 3,173a （69%） 計 12,974a	（2026年度） 麦 5,020a （100%） 大豆 1,720a （100%） そば 4,110a （100%） 飼料作物 3,320a （100%） 計 14,170a
4	麦・そば （基幹作） 麦 （二毛作）	戦略作物・そばの生産 力向上に資する取組助 成	10 a 当たり単収 （作付面積）	（2024年度） 麦 69kg 4,735a そば 30kg 3,793a 計 8,528a	（2026年度） 麦 132kg 5,295a そば 51kg 4,110a 計 9,405a
5	なす、トマト、花き、いち ご、ブロッコリー、ちぢみ ほうれんそう、栗、枝豆、 落花生、あじめコショウ、 西方いも、きくいも （基幹作） ブロッコリー（二毛作）	高収益作物への助成 （地域振興作物）	作付面積	（2024年度） なす 69a トマト 1,391a 花き 107a いちご 29a ブロッコリー 87a ちぢみほうれんそう 19a 栗 30a 枝豆 16a 落花生 62a あじめコショウ 19a 西方いも 113a きくいも 53a 計 1,995a	（2026年度） なす 66a トマト 1,591a 花き 180a いちご 53a ブロッコリー 85a ちぢみほうれんそう 13a 栗 64a 枝豆 22a 落花生 101a あじめコショウ 21a 西方いも 222a きくいも 64a 計 2,482a
6	野菜、果樹、花き・花木、 雑穀、その他作物 （基幹作）	戦略作物以外の作物へ の助成	作付面積	（2024年度） 野菜 1,537a 花き・花木 116a 果樹 6a 雑穀 0a その他 10a 計 1,669a	（2026年度） 野菜 1,910a 花き・花木 106a 果樹 11a 雑穀 11a その他 11a 計 2,049a
7	飼料用米 （基幹作）	わら利用 （耕畜連携）	実施面積	（2024年度） 2,535a	（2026年度） 2,800a
8	WCS用稲 （基幹作）	資源循環 （耕畜連携）	堆肥散布面積	（2024年度） 1,960a	（2026年度） 2,200a

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:岐阜県

協議会名:中津川市農業再生協議会

整理 番号	使途 ※1	作 期 等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	非主食用米の低コスト化助成	1	16,000	飼料用米・加工用米	飼料用米1ha以上、加工用米0.5ha以上作付。低コスト化取組。 加工用米等取組計画書等の認定。
2	WCS用稲の低コスト化助成	1	9,000	WCS用稲	1ha以上作付、低コスト化取組。加工用米等取組計画書等の認定。
3	戦略作物の集積助成	1	8,000	麦・大豆(黒大豆含む)	麦4ha以上作付、大豆2ha(二毛作と加算した面積)以上集積。 販売契約締結。
3	戦略作物・そばの集積助成	1	20,000	そば	2ha以上集積。
3	戦略作物・そばの集積助成	1	4,000	飼料作物	1ha以上集積。利用供給協定、自家利用計画を策定。
3	戦略作物・そばの集積助成(二毛作)	2	8,000	大豆(黒大豆含む)	2ha以上集積。(基幹作と加算した面積)出荷契約、販売契約締結。
4	戦略作物・そばの生産力向上に資する取組助成	1	7,000	麦	いずれか2ha以上の作付と排水対策の実施、生産力向上に資する取組を 実施。出荷契約、販売契約等の締結。
4	戦略作物・そばの生産力向上に資する取組助成	1	15,000	そば	いずれか2ha以上の作付と排水対策の実施、生産力向上に資する取組を 実施。出荷契約、販売契約等の締結。
4	戦略作物・そばの生産力向上に資する取組助成(二毛作)	2	7,000	麦	2ha以上の作付と排水対策の実施、生産力向上に資する取組を実施。出荷 契約、販売契約等の締結。
5	高収益作物への助成(地域振興作物)	1	21,000	なす・トマト	いずれか1a以上作付。出荷販売必要。
5	高収益作物への助成(地域振興作物)	1	17,000	花き・いちご・ブロッコリー・ちぢみほうれん そう・栗・枝豆・落花生・あじめコショウ・西方い も・きくいも	いずれか1a以上作付。出荷販売必要。
5	高収益作物への助成(地域振興作物)(二毛作)	2	17,000	ブロッコリー	いずれか1a以上作付。出荷販売必要。
6	戦略作物以外の作物への助成	1	4,000	別紙	直売所等へ出荷販売必要。
7	わら利用(耕畜連携)	3	9,000	飼料用米	利用供給協定締結。加工用米等取組計画書等の認定。
8	資源循環(耕畜連携)	3	9,000	WCS用稲	利用供給協定締結。加工用米等取組計画書等の認定。

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。